我心に訴ふ!!

言を駁撃しの態度を宣明す!!

決心は、自己の利慾のためではありません。濱松の地を愛すればこそ」とは實に厚顔しい限りであります。濱松市民の名を詐る此の破廉恥漢を徹底的に糾彈すべきではありませんか。又自分の過失を蔽はんとして、評議員を危險なものである如く逆宣傳するに至つては、言語道斷ではありませんか。評議會は立派な勞働組合であつて、危險視すべき理由は少しもありません。それでこそ、政府も充分理解してゐます。去るメーデーの示威運動に於ても、社長の中傷の如き團体でないことは署長にすらも「日本一否世界一」だとのメーデーを推稱したによつても明かではありませんか。即ち濱松の平和を亂すとかといふことは少しもないのであり、「日本精神に反する勞働組合」では毫もなく堂々たる合法團体であり、三万數千の勞働組合員の指導機關であることを聲明して憚らないのであります。社長こそ好んで爭ひを事とする濱松の平和の破壞者であることは明かであります。

第三の點　從業員は評議會と手を繋つて會社に平穏に出勤して貰ひたい。おとなしい言ひ方ではありますが、何たる圖々しさであり、疲猾さでありませうか。爭議團は要求さへ通るなら平穏すぎる平穏に歸る事を躊躇するものではないのです。天野社長が生ヂッカ見識のある樣な言葉を使つて組合（實は爭議團）と職はう等といふが如きくだらない頑迷さを固執すればこそ爭議は解決せず悲慘な爭議團員の家族を生んでゐるのです。しかも此の罪を評議會に被せるに至つては狐の如き人間と言はねばなりません。爭議團員は悲慘な家況にありながら何故お互のために犠牲になつてまで結束を固めてゐるのでせうか？ 天野社長の極端な頑迷にあることは云ふまでもありません。聞けば會社内でも此の社長の「わからなさ」に憤慨して紛擾を惹き起してゐるさうであります。實に内部からですら此の社長に非難の聲は高いので、何時までこんな強硬な態度に出るかは豫測し難いにしても、やがて濱松市民諸君及び爭議團員に平和攪亂者として非難するの日も近いことでありませう。私たちは唯彼の反省を促し一日も早く爭議を解決せしむることを望むものであります。

第四の點　會社は土地の平安和樂のために勞働組合を倒すために苦心して居るといふこと如何に殊勝な平和主義者の如く見ゆるこの社長並びに會社こそは組合の代はりに盛に暴力を振ひ始めました。しかも「脅迫や暴力を以てする弱い者いぢめは絶對にいけません」又評議會の諸君に申し上げますの中に「諸君は暴力で給料の奪取をするのか、脅迫又は暴行或は傷害又は殺人の行爲によつて此の目的を達するのか、如何ですか」と言つた會社や社長を見よ！天野社長の息の天野辰夫といふ男は東京から暴力團數十名を引率してやつて來ましたが、「能く正なる御判斷を乞ふ」の大ビラを撒布した五日の午後には自働車數臺に分乘せしめビラを配布して後車上で短刀をふりかざして「ろからノゾかせる一方大ダンビラの抜き身をふりかざして爭議團の側に向て噴聲を賣りかけるに至つては唯驚く外はありません。こんなゴロツキを一日四圓以上の日當を與へて使ひ親切ぶりくしの演說をはじめたのであります。そして盛んに萬歳を連呼して騒いだのでありますが、社長は之を工場からノゾいてゐた時もあつたさうであります。此等は、武器を持たない爭議團を强迫脅嚇するためのものであり「傷害又は殺人の行爲によつて其の目的を達せんとする」社長並に會社の手先なのであります。しかも急づくりの日本主義勞農同志會の假事務所を作つて爭議團の側に向て噴聲を賣りかけるに至つては唯驚く外はありません。こんなゴロツキを一日四圓以上の日當を與へて使ひまはしてゐるのださうです。憎むべきは天野一族であるのださうです。

濱松の市民諸君よ！濱松の全勞働者諸君よ！我々は飽くまでもかゝる社長並に暴虐と堂々戰）つもりであります。私共爭議團の結束はます〳〵固く、會社は今や狼狽狂奔して居ます。見よ！彼等は厚顔にもあられもない事實造捏をし、市民諸君を迷はさんとしてゐます。然し市民諸君よ、我々爭議團を信ぜられて、能ふ限りの同情と援助とを以て、我々の後援者たられ、天地許さぬ暴虐なる天野社長等紀彈の聖戰に參加されます樣、幾重にもお願ひし、併せて、我々の態度の公明正大を宣明する次第であります。

賢明なる

に化てゐたと言ひます。濱松の鬼は、社長に化けてゐる！いや濱松の鬼ではなくして大江山の鬼に違ひないのであります。早く退散しないで「濱松をナメて圖に乗つて居ると鬼征伐をやつた桃太郎の子孫が族々と飛び出して來まするぞ！」何と皮肉ではありませんか。

第五の點　我々が「出鱈目な宣傳」をやつてゐるといふのでありますが、此れも亦反對であつて會社こそ「出鱈目な宣傳出來る」といふ暴言を發したと私たち爭議團が宣傳して實明なる市民に日本の如き法治國に於て許すべからざる不敬の言を弄する社長を糾彈したのは事實でありますが、此の言葉こそは實に職工代表に彼がその居を通して發した言葉であり、職工代表が耳に直接聽取した白昼の太陽の如く明らかなものであります。然もなほ市民諸君の前にかゝる虚構を流布せんとするに至つては、唯もう驚く外はありません。又市の平和のために僧惡せずには居れません。(2)、問題は拒絶するとかしないとかまで行つては居なかつたなどとは又しも社長のウソでありまして交渉の際獄願書の内容に就いては毫も具体的に商議しなかつたのは明らかに會社の不誠意を示し、又拒絶に等しきものであります。でこの不誠意にして言を左右にして解決をなす意志のないのを知つた職工は一同憤然としてライオン館にひきあげたのでありました。若しも之の際會社にして少しでも解決の意志があるなら、かゝる事態には陷らなかつたのであります。その後組合代表が意見の交換のために面會を求めても之に應ずる誠意なきに至つては、何のためにかくも强硬な態度にいづるか其理由及び彼の心狀を疑はしむるものであります。のみならず彼は實に爭ひのために爭ひを構ゆる狂的人物と言はねばなりません。(3)(4)、にしましても、凡て嘘構でありまして、社長が暴言を吐いたからストライキをやるのだと誰が言つたのだ？之は一つに社長らしい不見識な偏見でありますし、水に溺るゝ者は、一すぢの藁くずをも、つかむの諺通り、彼は實にかくの如き偏見と流言に、その最後の救ひを求めんとするものであります。誠に哀むべきものです。

第六の點　「爭議團の足並がそろはないとは實に何のためのおセッカイでありませうか。我々爭議團員の全部は社長並びに會社の態度の不誠意且つ暴虐なるに聖憤を洩らしてゐますそしてそれだけ結束は益々固まりつゝあるのであり、社長や會社の心配は無用であります！唯社長並びに會社が頑迷なる態度を捨て、我々の要求を容れ解決するの誠意を有するに至るまで、飽くまで對抗して反省を促すつもりであります。たとへ彼等が暴力的行爲に訴へませうとも、飽くまでひるまず戰ふ決心であります。市民諸君におかれましても我々の意のある所を諒とせられ、天野社長一味の破廉恥漢を糾彈するために我々に充分なる應援を惜まれざることを希望する次第であります。

最後の點　以上申し上げました事によりまして、濱松の地を去るべきは「評議會の諸君」ではなくして天野社長一味の人非人であります。從つて「評議會の諸君」は、彼の投つけた讒侮追放の言葉をその正當なる所有者に投返して、その勞を謝するでありませう。天野社長一族よ！「あせり濱松をナメて圖に乗つて居ると鬼征伐をやつた桃太郎の子孫が族々と飛び出してきまするぞ！」